

新地町農業協同組合（JA新地町）



代表理事組合長	荒 昭 悦	役員数	14名
所在地	〒979-27 相馬郡新地町 谷地小屋字樋掛田64	理事	11名（うち常勤 1名）
	☎0244-62-2121	監事	3名
設立年月日	昭和37年8月1日	職員数	43名（男31名 女12名）
		臨時	5名

I 地区の概況

当地区は、県浜通り最北端に位置し、西に阿武隈山地が縦走し、東は太平洋に面した平地農村地帯で総面積46km²である。

交通条件は、JR常磐線と国道が南北に縦走り、福島市や仙台市まで車で60分、相馬市に隣接した位置にある。

気象は比較的寒暖の差がなく温和であるが、時にはヤマセの影響を受けることもある。

46年から、相馬港の建設を中心とした農業と工業が一体となった足腰の強い産業構造をめざした相馬地域総合開発計画、さらに電源立地と工業開発に取り組み産業基盤の整備が進められている。

また、町内には伝説に彩られた貝塚など数多くの古代の遺跡が分布しており、歴史も豊かな人口9000人余の町である。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

昭和40年前後までは、恵まれた自然環境を生かし水稻を中心に野菜・畜産・養蚕・葉たばこ等々の組合せた複合経営が盛んに行われていたが、就労機会に恵まれていることもあって兼業意識が強く、第2種兼業農家が9割近くを占めるなど農業就労者の高齢化が顕著である。

耕地面積は1293haで1戸当り122aと零細である。農業粗生産額は32億8700百万円で、作物別割合は米36%、野菜17%、畜産19%、花卉4%、養蚕0.4%、果実0.3%となっており稲作のウエートが高い。しかも、その稲作農家の殆どは自己完結型の経営が多いことから農機具類等への過剰投資の傾向にある。

このようなことから、本地域農業の基幹である稲作の低コスト・省力化を図り、野菜・いちじく・大豆等々の畑作振興と共に、これらの産物に付加価値を高めて収益性の高い農業を目指し「いちじくワイン」を発売した。また、電源三法交付金事業による農産物加工施設で「納豆」「味噌」の加工事業に取り組んでいる。

2 経営の推移

(1) 農業協同組合の設立と合併

農業協同組合法は、戦後まもなく公布され、官僚支配的な農業会は解散され、農地改革などにより大きく揺れ動く農村の中で、農民主体の民主的組織として農業協同組合が設立された。

昭和23年に福田村第一農業協同組合、福田村農業協同組合、新地村農業協同組合、駒ヶ嶺村農業協同組合がそれぞれの村の農業会の資産を受け継いで誕生、8月15日から営業を開始した。

福田村では、農地改革による農地解放が絡む地主自作農家と小作農家との争いから、農業会

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数	(戸)	1,324	1,451	1,355	1,310	1,149	1,064
	うち 専業 (戸)	967	720	185	81	77	70
	Ⅰ種兼業 (戸)	215	448	727	428	251	112
	Ⅱ種兼業 (戸)	142	283	443	801	821	882
経営耕地面積	(ha)	1,316	1,475	1,446	1,444	1,414	1,293
	うち 田 (ha)	745	846	898	710	969	915
	畑 (ha)	459	502	336	351	299	265
	樹園地 (ha)	112	127	158	182	146	113
収穫面積	稲 (ha)	726	838	911	818	885	768
	麦類 (ha)	261	323	92	2	4	6
	野菜類 (ha)	140	119	149	113	85	103
	うちきゅうり (ha)	6	14	60	19	8	16
	果実類 (ha)		1	25	22	9	12
	飼料用作物 (ha)	142	121	26	37	58	48
飼育頭羽数	たばこ (ha)	52	25	27	18	17	6
	乳用牛 (頭)	4	59	194	224	252	265
	肉用牛 (頭)	834	924	434	112	75	113
	豚 (頭)	70	335	450	46	13	116
	にわとり (千羽)	3	11	31	32	29	19
ブロイラー (千羽)				92	385	380	

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

の資産を分割して二つの農協が発足した。

その後、28年に県の指導により福田村の二つの農協は合併し村内一つの農協として新たに発足した。続いて37年に福田、新地村、駒ヶ嶺の3農協が合併して、現在に至っている。

(2) 昭和20年代

当時の農家組合員は、農協に貯金する余裕はなく、そのため各農協とも運営資金に事欠き、農業手形制度による借入れによって、肥料購入をしたものの、経営は非常に厳しいものであった。26年には、新地村農協は再建整備の指定を受け、経営立て直しに努めた。

とにかく、経営の健全化には資金調達が最も重要であることから、増資年次計画、肥料貯金など米代金からの振替制度を実施し組合員から

の協力を得た。

更に運営資金増強のための貯金倍増推進運動を展開、信連支所と農協職員が一体となり夜間推進を一週間単位に数回実践して、その成果の喜びを味わったものである。

新地村農協の再建整備は、役職員と組合員の努力により30年度に達成することができた。

(3) 昭和30年代

30年には、共済事業が始まり組合員の生命財産を守るため、積極的に取り組み年々保障額を積み上げることができた。

35年に体質改善運動が展開され、3農協の合併に取組まれ37年に合併し村内1農協となった。

合併時の主な財務内容は、預金3467万円、貯金1億5482万円、貸付金1億2394万円、借入金

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

年度		24	30	37 (合併年度)	40	50	60	5
項目								
	正組合員戸数(戸)	1,239	1,237	1,303	1,198	1,209	1,183	1,205
	准組合員戸数(戸)	92	95	17	65	71	91	127
資 産	余 裕 金	1,950	30,230	43,190	80,952	1,050,552	5,323,417	7,464,320
	貸 出 金	4,070	37,750	123,939	206,628	713,309	1,160,115	1,578,278
	その他流動資産	7,682	8,094	16,189	42,420	322,184	427,295	498,335
	固 定 資 産	2,585	7,080	18,160	33,646	163,764	210,169	474,906
	外 部 出 資	520	2,454	4,908	6,131	19,340	63,188	108,334
負 債 及 び 資 本	貯 金	15,235	77,020	154,820	281,644	187,491	6,082,622	8,501,210
	借 入 金	6,923	12,700	25,373	25,053	10,296	152,898	462,998
	そ の 他 負 債	870	2,120	12,012	36,846	251,182	629,355	828,433
	出 資 金	767	10,520	17,559	20,944	80,174	140,384	170,102
	積 立 金				90	8,178	70,182	152,896
	剰 余 金	-166	20	595	573	7,344	17,439	8,534
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	41,500	108,600	217,209	338,689	1,058,452	1,421,611	1,270,917
	うち 米 穀	36,980	95,410	197,635	280,130	766,165	1,065,701	939,401
	青果物	200	120	913	17,648	180,519	179,534	219,305
	畜産物	4,320	13,070	18,661	40,911	111,768	176,376	112,211
	購 買 取 扱 高	10,500	33,412	66,824	138,656	531,789	910,509	899,079
	うち 生産資材	7,928	28,692	61,968	118,320	453,712	732,966	665,695
	生活資材	2,572	4,720	4,856	20,336	78,077	177,543	233,384
長期共済保有高		47	403	804	8,734	52,974	84,184	

(注) 合併年度は最新合併年度 合併以前の年度は合併参加農協の合計

2537万円、固定資産2087万円、資本積立金1697万円で、120万円の赤字であったが、38年度決算において62万円の黒字となり、合併による効果が現れ、健全経営に明るい見通しが出て来た。

38年に合併一周年記念特別貯蓄運動を展開し貯蓄の増強に努め39年度末には貯金高2億3844万円となり合併時の192%増となった。

(4) 昭和40年代

40年に入り、本所機能充実を図るため本所事務所を新築、41年には、本所に総合資材倉庫を建設し組合員のサービス強化を行ってきた。

42年5月に有線放送電話が開通し、組合員地域への広報活動が開始された。

また、各設備に伴う固定資産の取得により自己資本の不足が生じ、組合員の理解により増資を行い資本の充実に努めた。

43年から45年にかけて、福田支所、駒ヶ嶺支所に農業倉庫を新築、米の系統全量集荷及び良質米の保管管理を行う。また果樹協業組合が設立され、約60haの果樹団地が造成された。モモ、リンゴが栽培されて、46年から50年に赤柴果樹選果所、本所に購買倉庫、野菜集出荷所、給油所、農業機械サービスセンターを設置し、組合員サービスに努めてきた。またオイルショックによる石油類の受入れが困難になり、組合員への供給に苦勞したが、組合員には不足ながらも注文通りの供給が出来た事は、組織の力があつたからこそと考えられた。

(5) 昭和50年代

50年代に入り新地町の指定金融機関となり、公金の取扱いにより地域に貢献してきたところである。

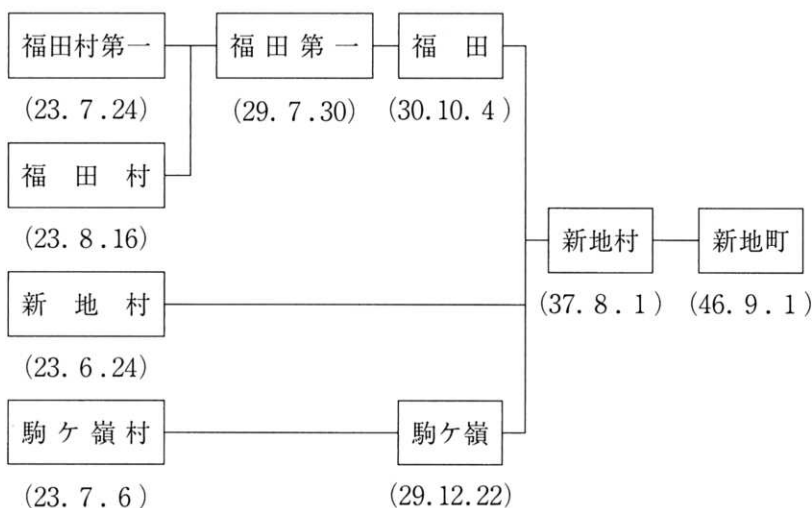
一方一般電話の普及により、有線放送電話通話業務を廃止し放送のみ存続してきたが、経費負担増から全面廃止となった。また協同活動強化3カ年計画設定水田利用再編対策（第2次米生産調整）が実施され厳しい農業情勢の中組合員共々健全経営に向け努力をしてきた。

金融部門においては、オンライン電算システム本支所一斉スタート、年金友の会発足等、またJA貯金全国ネットサービスがスタートし、本所にATM(自動受払機)を設置、で組合員サービスに努めた。

(6) 昭和60年代以降

63年度は、金融の自由化、水

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

合併年月	組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
29.7.30	福田村第一	渡辺宗平	169	13	5
	福田村	佐藤 新	165	13	4
37.8.1	福田	荒 新吾	329	13	9
	新地村	寺島秀雄	545	11	11
	駒ヶ嶺	平間 稔	474	12	7

田農業確立対策による転作面積の拡大、生産者米価の引き下げ、また異常低温・日照不足・長雨により水稻をはじめ農産物全般に被害をもたらし、農家経済は多大な打撃を受けた。農協経営は一段と厳しくなり共済事業を除き事業は計画未達成となった。

平成に入り、二年続きの異常気象台風等により畑作物をはじめ水稻でも10%近い減収となり、販売事業計画は未達成に終わったが、加工事業として転作大豆による味噌加工グループの結成、食材宅配事業と葬祭事業の取扱い開始により生活事業の強化に努めた。

3年度に遊休農地の有効活用を図るため、い

ちじくの栽培を普及し生産量の拡大と地域特産品としてワインの製造開発を行い、4年4月に町・商工会・JAが一体となり、ワインの発表会を盛大に行った。

5年度は、冷夏による戦後最悪の大凶作となり、米を含めた農産物全体の被害総額は約8億円に達し農家経済に大打撃を与えた。このような情勢化にあつて「JA21戦略第1期3か年計画」の第2年度として、役職員一体となり事業運営に取り組んだ結果、信用事業、共済事業は計画を達成したが販売・購買事業については、残念ながら未達成に終わった。

Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年		31年	
6.24	新地村農業協同組合発足	5.	再建整備完了(新地)
7.6	駒ヶ嶺村農業協同組合発足	32年	
7.24	福田村第一農業協同組合発足	5.	中小農畜産物振興家畜預託規定設定(新地)
8.16	福田村農業協同組合発足	5.	系統利用優良 経済連表彰(新地)
25年		6.	共済優績 全共連表彰(駒ヶ嶺)
11.	二年連続凍霜害発生	7.	農機具専任職員設置(新地)
.	冷害克服農協総決起大会(新地)	33年	
26年		2.	肥料倉庫新築落成(新農村建設事業)(新地)
.	再建整備組合指定(新地・駒ヶ嶺)	4.	創立10周年記念式典挙行(新地)
29年		5.	福田農協 優良農業倉庫全販連表彰
7.30	福田村農協を福田村第一農協が吸収合併して福田第一農業協同組合と名称変更	9.	台風22号により駅前倉庫浸水被害(新地)
8.20	新地村、福田村、駒ヶ嶺村合併して新地村誕生	34年	
10.	共済劇団講演会開催(新地)	5.	合併推進委員会設置
12.	駒ヶ嶺農業協同組合と名称変更	6.	貯蓄・共済推進体当たり運動展開(新地)
30年		12.	狼沢地区無電灯解消事業着工(新地)
10.	福田農業協同組合と名称変更	35年	
10.	共済事業開始(新地)	6.	3農協合併推進会議
12.	作田農業倉庫新築落成(福田)	8.	体質改善運動実施(新地)

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
36年		45年	
1.	集落養鶏モデル事業(釣師地区)(新地)	5.	共済優績 全共連表彰
4.	合併予備契約締結	12.	そさい園芸取扱い初の1億円突破
7.	共済優績 全共連表彰(駒ヶ嶺)	12.	5か年計画増資目標達成
37年		46年	
8.	新地村農協、福田農協、駒ヶ嶺農協が合併して新地村農業協同組合誕生	5.	赤柴果樹選果所新築落成
11.	1か月にわたり部落懇談会開催	8.	町制施行新地町誕生
11.	養豚集落事業県指定 中里地区	9.	新地町農業協同組合と名称変更
38年		11.	本所資材倉庫新築落成
2.	福田支所飼料倉庫新築落成	47年	
5.	第1回通常総会	4.	総合3ケ年計画設定
7.	プロパンガス供給開始		新地町農業協同組合と名称変更
11.	農民祭開催	6.	共済優績 全共連表彰
39年		11.	野菜集出荷所落成
4.	ランドレース導入指導会	48年	
5.	本所事務所新築入札(1000万円で落札)	9.	電算オフライン開始(貸出金・購買)
6.	共済優績 全共連表彰	12.	新設給油所オープン
10.	農村巡回診察(厚生連)	49年	
.	りんご集落事業水漕起工式 真号地区	9.	農機具サービスセンター落成
40年		9.	給油所供給高8000万円突破
3.	初めて出資配当を行う	10.	駒ヶ嶺支所農業倉庫新築落成
4.	貯蓄奨励、ヘリコプター郷土遊覧飛行	50年	
5.	本所事務所新築落成	2.	大雪により有線放送施設に大被害
5.27	系統利用優秀 経済連表彰	5.	第1回総代会開催
10.	米集荷初4万俵突破	8.	有線放送存続説明会
10.	共済新契約2億円達成	8.	干ばつ対策会議
41年		11.	有線放送 通話廃止し放送のみとなる
3.	有放事業合同説明会 役員区長農事組合	51年	
10.	有放事業認可	5.	駒ヶ嶺支所事務所新築落成
11.	本所総合資材倉庫新築落成	52年	
11.	農協大会 優良農協表彰	4.	第2回総代会(役員13名を14名に変更)
12.	米集荷4万3000俵突破	53年	
42年		8.	宮城県沖地震災害共済金支払い
6.	駒ヶ嶺地区干ばつ対策	11.	有線放送廃止決定
10.	有線放送事業電話開通	54年	
11.	米集荷5万俵突破	4.	貯金業務 オンラインスタート
12.	きゅうり祭り	5.	系統利用優良 経済連表彰
43年		7.	福田支所購買倉庫新築落成
2.	福田支所農業倉庫新築落成	10.	台風16号20号被害対策
6.	15分間にわたる降電 りんご大被害	55年	
10.	駒ヶ嶺支所農業倉庫新築落成	7.	低温、長雨による被害 被害額約10億円
44年		11.	臨時総代会(被害農家救済借入金増額)
5.	出資配当6%	12.	強風雪による高潮被害 農地に大量の海水流入
7.	自主流通米制度実施	56年	
12.	共済保有高20億円突破	5.	55年冷害に対し水稻種子、農薬代一部助成

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
11. 57年	地域農業振興計画策定	63年	
3.	オンライン電算システム一斉スタート	3.	特産品としていちじくの栽培始める
8.	合併20周年記念式典（新地高校）	5.	共済優績 全共連表彰
58年		6.	ふるさと宅配便第1回発送
1.	加藤哲蔵組合長町助役就任により辞任	9.	役員水稲不稔被害現地調査
5.	共済優績 全共連表彰	12.	町内未婚者アンケート調査
59年		元年	
4.	赤柴果樹組合解散	5.	共済優績 全共連表彰
9.	本所事務所大規模補改修	6.	第1回農協ふれあい夕市開設(毎金曜日)
11.	現金自動受払機ATM開通式	7.	百姓一揆東北北海道生産者消費者の集い
11.	野菜集荷所に予冷庫設置	8.	盆市開催
60年		11.	武井地区造成地土壌改良対策
10.	稲作作況指数110の豊作となる	2年	
11.	第1回ふるさと産業まつり開催	4.	味噌加工開始(加工グループ)
11.	新しい新地町をつくる文化講演会	9.	ライスセンター視察研修 磐梯町
61年		8.	食材宅配事業開始
5.	貯蓄優績 農林中金支店長表彰	12.	米消費拡大セミナー開催
8.	福田支所新築落成	3年	
8.	購買事業オンライン稼働	9.	台風18号、21号被害対策
11.	第2回ふるさと産業まつり	12.	低温農業倉庫、福田支所新築起工式
11.	稲作担い手研修会	4年	
62年		3.	いちじくワイン「ほほえみ」発表会
4.	第12回総代会(地域営農推進基金)	8.	合併30周年記念、低温農業倉庫新築落成 合同式典
5.	貯蓄優績 農林中金支店長表彰	6.	大雨による農作物被害対策
5.	系統利用優良 経済連表彰	5年	
5.	共済優績 全共連表彰	9.	稲作大冷害役職員町内圃場現地視察
5.	干ばつ対策本部設置	11.	稲作大冷害米集荷量1万1千俵弱
6.	米穀政策価格要求実現総決起集会(本所)	12.	ライスセンター建設予算承認される
9.	台風15号被害対策	6年	
		2.	ライスセンタープラント建設工事入札

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組合員

()は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個人	法人	個人	団体	個人	法・団
1,210		127		1,337	
(1,205)		(127)		(1,332)	

2 役員及び参事

代表理事組合長	理事 佐藤文正
荒 昭悦	理事 阿部恒清
第一理事	理事 山内安義
目黒静雄	代表監事
理事 荒健二郎	渡部栄太郎
理事 林隆雄	監事 寺島貞弘
理事 名取純	監事 佐藤茂樹
理事 大掘二郎	参事 太田政光
理事 森弘平	
理事 寺島清一	

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
31	12	43	4	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会 員 数
農事組合長会 農青連	寺 島 幹 雄	31組合 7

5 生産部会

名 称	代 表 者	会 員 数
きゅうり生産部会	森 正 之	15
いちご 生産部会	菅 野 良 孝	13
にら 生産部会	中津川 正 夫	31
いちじく生産部会	加 藤 文 雄	78
加工トマト生産部会	加 藤 義 臣	24
しいたけ生産部会	菊 地 久 光	5
酪農部会	佐 藤 功	7
緬羊部会	加 藤 源 司	5
繁殖牛部会	荒 実	18

6 主な施設

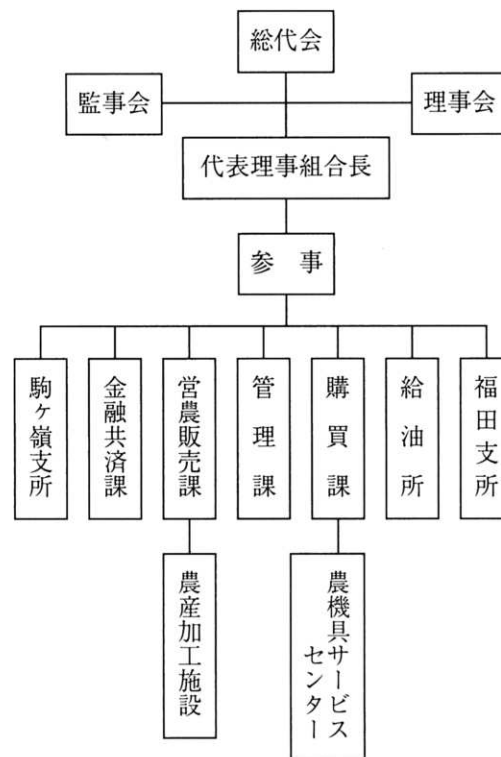
名 称	所 在 地
本 所	谷地小屋字樋掛田
福田支所	福田字中里
駒ヶ嶺支所	駒ヶ嶺字新町
給油所	谷地小屋字駒込
農機具サービスセンター	〃 〃
低温農業倉庫	〃 〃
農産物加工施設	〃 〃
ライスセンター	〃 〃
野菜集出荷所	〃 字萩崎

7 歴代組合長・参事

組 合 長			
37～50	寺島 秀雄	58～5	平間 甲一
50～53	小幡 光一	5～	荒 昭悦
53～58	加藤 哲蔵		

参		事	
37～44	岡田 信	64～5	菊地 忠
44～62	荒 昭悦	5～	太田 政光
62～63	横山 萬		

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

福田農協			
23～32	渡辺 宗平	32～37	荒 新吾
福田村農協			
23～26	林 貢	26～29	佐藤 新
新地村農協			
23～27	志茂武五郎	27～37	寺島 秀雄
駒ヶ嶺農協			
23～26	渡部 朋衛	26～37	平間 稔